教員の教育意欲喚起の取組み事例の紹介

授業アンケート結果を改善に繋げるＦＤ支援

大同大学

大同大学（平成２０年度までは大同工業大学）では、全学的な学生による授業評価と結果の丁寧な分析、そして授業公開、授業研究、授業改善のサイクルを通じてのＦＤの支援を行い、教育改革に取り組んでいる。

１．実施規模

※　アンケート　全学的にセメスターごとに実施（全科目・非常勤を含む全教員）
※　対象学生　　3,059 人　（工学部 5 学科　情報学部 2 学科）

２．実施の経緯

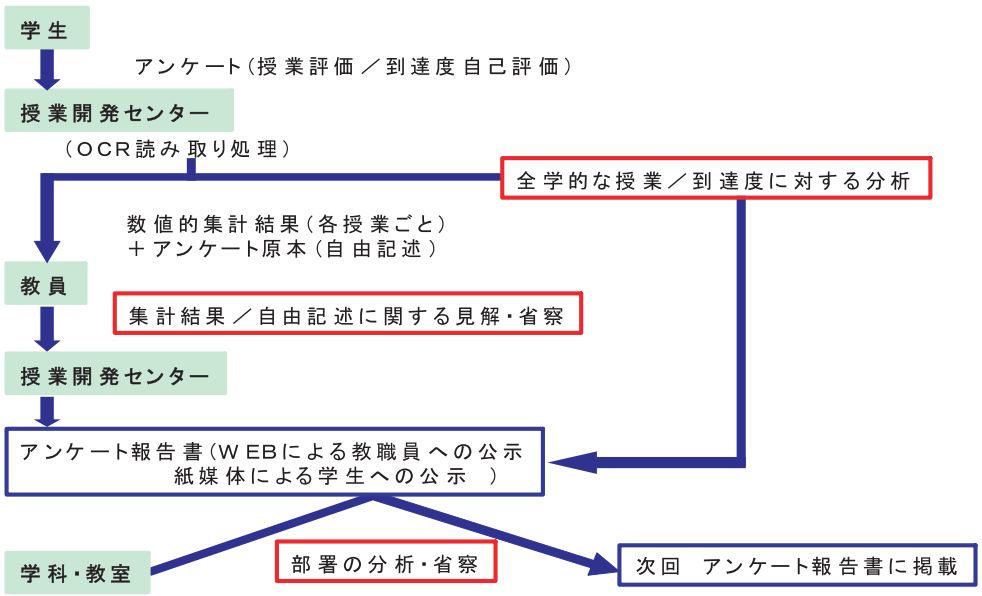
大同大学では、平成 11 年 11 月に教育体制改革委員会から学長に提出された「教育体制の改革について（答申）」を受け、「学ぶことの喜び」、「思考することの喜び」、「表現することの喜び」を学生に与え得る教育体制の構築を目指している。平成１３年４月の授業開発センター開設を機に授業アンケート結果の丁寧な分析を行っている。

３．実施形態

大同大学の授業アンケートの特徴は、単なる授業評価や学習到達度の確認に留まらず、以下の 3 層構造で詳細に分析し、授業改善に役立てることにある。

①　授業ごとの分析・省察（全教員／セメスターごと）
②　部署（学科および教養部の教室）単位での分析・省察（全部署／年度ごと）
③　全学レベルでの分析・省察（授業開発センター／セメスターごと）（図１）

図１・　３層構造（教員、学科等、センター）のアンケート結果の分析・省察



４．実施内容

（１）授業アンケート

授業アンケートは、全学統一の様式・運営方法により、全授業を対象にセメスターごとに行う「授業評価アンケート」と「学習到達度評価アンケート」で構成している。

前者は、授業の内容・方法を学生が評価するものであり、全科目共通の質問内容である。後者は、授業科目ごとに異なる質問項目からなり、受講学生がどれくらい授業内容を理解したかを自己評価するアンケートである。

（２）アンケート結果の分析と公開

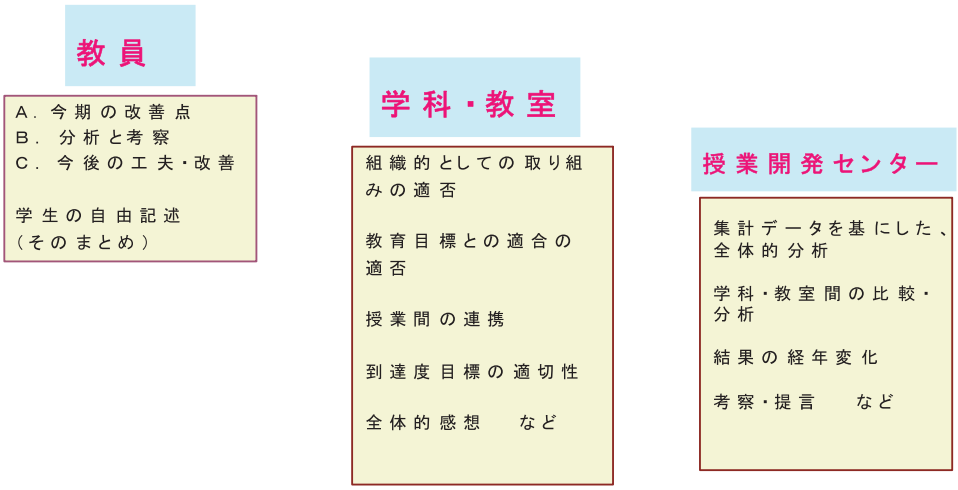
アンケート結果の省察は、教員レベル、学科および教養部の教室レベル、授業開発センターレベルの３階層で、以下の視点で行っている。（図２）

① 教員レベルの点検評価では、「学生の自由記述の取りまとめ」「学生の自己分析記述の取りまとめ」「授業運営状況」「アンケート結果の考察（これまでの課題に対する改善効果、今後の改善策など）」を各授業の担当教員が省察・報告する。

② 学科・教室レベルの評価内容は、「科目間の連携」「学習到達目標の適切性」「学科・教室での組織的取り組み」「学科・教室での組織的観点からみた改善点」などであり、学科・教室における継続的な授業内容の点検にもとづいて報告され教育目標に準じた学科カリキュラムの有効性を年度ごとに省察する機会になっている。

③ 授業開発センター（全学）レベルでは、学生の回答した授業評価／学習到達度評価アンケートの集計結果から、大学全体での定量的な評価を行うものである。大学全体での教育改革の進展具合や、入学生の学力低下傾向問題が各授業へ与える影響、単位修得率との関係、学科・教室間の比較、結果の経年変化などの全学的な課題を省察している。分析結果と課題・展望は、報告書としてまとめられ学内公開される。

図２．　３層構造分析のポイント



５．成果と今後の課題

丁寧な授業アンケートの分析は、授業改善に大きく資するものであり今後も継続する。さらに、授業改善・工夫に関する教員へのコンサルティングサーヴィス、ワークショップや講習会の開催などを充実させていく予定である。授業の共通課題に対する教員の試行的取組を経費面から支援する「授業開発助成制度」および「授業開発成果推進助成制度」を実施してきたが、これらの制度の点検評価・見直しを通じて組織的な教育改善に繋げたい。